

令和 8 年度「学校教育目標」

令和 8 年度 学校教育方針

◎学校教育目標

「心と言葉、人とのつながりを大切に、自分の未来を切り拓く力を育成する」

山科の心 ～折れない心、熱い心、優しい心～

1 学校経営方針

- 全ての学校教育活動において生徒の「命」を守りきることに徹する。
- 学校が「安心・安全」な場所であるために、常に危機管理意識を持ち、組織的な対応を進める。
- 「いじめは絶対に許さない」という強い意識を持ち、教職員全体でいじめ根絶に向けた教育実践に努める。
- 生徒の多様性を理解し、個性の伸長に努め、「誰一人取り残さない教育活動」を進める。
- 生徒の状況に応じた支援に最善を尽くし、「人権」を尊重し、活気と笑顔が満ちあふれる学校風土を創る。
- 教職員が自分の職責を自覚し、「組織的な指導体制(チーム山科)」を構築することにより、生徒と教職員が充実した学校生活を送れるようにする。(Well-being)
- 全ての教育活動で「心の教育」を充実させ、「豊かな感性、他者への思いやりと自己肯定感」を育てる。
- 地域との「つながり」、学校での「学び合い」活動を通して、社会に必要な「規範意識」を醸成する。
- 小学校との連携のもと、9年間の小中一貫教育を推進し、「確かな学力」の定着を系統的に進める。
- 小学校との連携のもと、9年間の小中一貫教育を推進し、調和のとれた生活習慣を身に付け、「心身の健やかな成長と健康の保持増進、体力の向上」を系統的に育成する。
- 公立中学校としての使命と期待、生徒一人一人の教育的ニーズを理解し、学校と家庭、地域の連携と協働を深め、「信頼される学校づくり」に努める。

2 目指す生徒像

- 多様な学びを生かし、自分の心の向け方と自分の言葉に責任を持ち、自分らしい生き方ができる生徒
- 人とのつながりを大切に、自分や周りの人、家族や地域を大切にできる生徒
- 地域の伝統と文化を受け継ぎ、自分が生きる未来を想像し、自分の未来を切り拓くことができる生徒
- 仲間との交流、地域との交流、人との交流を大切に、自分から挨拶ができる生徒
- 人それぞれの価値観を認め、他者と共生、協働する中で、人権という普遍的な文化の担い手となる生徒
- 調和のとれた生活習慣と規範意識を身につけ、心身ともに健康な生活ができる生徒
- 生涯を通じた健康の保持と増進を意識し、体力の向上に努めることができる生徒
- 自分の育った地域、自分がこの先に生きる地域や社会で、自分の役割を果たし、貢献できる生徒
- 多様な情報の中で、正しい情報を見極め、適切な判断のもと、情報社会を生き抜くことができる生徒

3 目指す教職員像

- 教職員としての職責を自覚し、社会的責任と教育公務員としての責務を果たせる教職員
- 豊かな人間性を通して、生徒や保護者、地域と望ましい人間関係を築く教職員
- チーム山科の一員として、個々の強みを生かしながら、組織的に教育活動を進める教職員
- 生徒の心の機微を感じ取り、生徒に寄り添い、共感し合い、生徒を励まし支えられる教職員
- 誰一人取り残さない教育の視点を持ち、個別最適な支援を推進できる教職員
- 人権教育の視点に立ち、いじめや差別のない学校づくりに努める教職員
- 社会の変化を捉えながら、自律的かつ継続的、探究的に学び続ける教職員
- 授業力向上のため、学び続ける姿勢を大切に、自ら授業改善に努める教職員
- 職務を全うし、自己研鑽に努めるとともに、自身の働き方改革を理解し、改善、実践できる教職員
- 不祥事根絶に向け、自らの服務規律の厳守とともに、組織全体で不祥事根絶の風土を醸成し合える教職員

4 重点目標

- 学習指導要領が示す授業の在り方を理解するとともに、「指導と評価の一体化」の更なる充実に努める。
- 生徒の現状を把握し、個々の言語能力の習得を目指した取り組みに努める。
- 教育課程全般にわたり、探究的な視点をもった活動や体験的な活動を意図的に設ける。
- グローバルな視点を持つとともに、生徒一人一人が自分の考えや思いを伝える力を育成する。
- 自ら課題を設定し、判断し、行動する学習サイクルを取り入れ、自ら学ぶ力、自ら律する力を育む。
- 困りや悩みを抱える生徒一人一人に寄り添い、個々に応じた就学支援、教育支援を組織的に展開する。
- 生徒や家庭の多様性を理解するとともに、互いの違いを認め、受け入れる素地づくりに努める。
- 道徳教育を通し、「山科の心」を浸透させるとともに、これからの地域の担い手となる人材を育成する。
- 自分の心の向け方と自分の言葉に責任を持ち、自他ともに大切にする人権尊重の精神と態度を育成する。
- 伝統文化や自然体験等を通じて、豊かな感性と情操を育む。
- 他者との交流を大切に、「あいさつ」の励行、規範意識の高揚、発達支援的な生徒指導を進める。
- 日々の授業、学校生活全体を通して、学習規律や基本的生活習慣の定着に努める。
- すべての教育活動で生徒同士の絆づくりを推進し、意図的に自己肯定感を高める学級経営を進める。
- 保護者との連携をもとに、個々の不登校生徒に応じた手立てを進め、柔軟で粘り強い取組を実践する。
- ICT 機器の活用を進め、生徒との「つながり」を充実させるとともに、個別最適な教育活動を実践する。
- それぞれの生徒に応じた運動習慣の定着と体力の向上に向けた環境づくりと実践に努める。
- 新たな感染症、病気や怪我に適切に対応し、処置できるよう、学校全体で研鑽に努める。
- 違法薬物に対する危機意識を強く持ち、薬物から生徒を守る取り組みを進める。
- 災害及び事故発生時の適切な対応をはじめ、交通事故等の危険を予測する力、回避する力を育成する。
- 中学校給食の導入に向け、教科授業を通じた食教育、食に関する指導を充実させる。
- 授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化と基礎的、基本的な学力の定着を図る。
- 「働き方改革」の意義を理解し、教職員組織として、実践と改善に努める。
- 生徒と教職員が充実した学校生活を送るために、教育活動の振り返りと改善に努める。(Well-being)